



池田 良穂 (大阪府立大学の名誉教授、客員教授)

# 新クルーズ学

去る5月23日、札幌市興を図ることを目的とした北海道運輸局の入る庁舎のホールで、北海道から沖縄まで各地で活動しているクルーズ振興協議会の20回目の総会が開催されました。北海道は、初夏には少し早い季節でしたが、夜はまた寒いですが昼の気温は快適でした。

さて、クルーズ振興協議会とは、国土交通省海事局の旗振りのもと、日本本のクルーズを振興するために各地の地方運輸局を核として設立された組織です。それぞれの管轄の地方におけるクルーズ客船誘致や、地元クルーズマーケットを育成することでクルーズ産業の振



室蘭港に寄港中の「サン・プリンセス」

## 北海道クルーズ振興協が20周年

籍船のみで延べ31回と低まりましたが、今年には延べ118回の予定で、コロナ禍前の約130隻にほぼ戻る勢いとのこと。

中国発着のクルーズも開講演の中で、筆者は、夏

商船三井客船の「につぼ

の期間に、小樽発着の1

ん丸」が夏の終わりに小樽発着のクルーズを数航海行つ「飛んでクルーズ北海道」シリーズを実施しました。これは毎夏の定番クルーズとして定着し、今年も8月末から9月にかけて5回行われま

す。寄港地は、利尻島と知床半島の羅臼です。

このクルーズは、札幌空港まで飛行機で飛んできてクルーズに乗るフレイ&クルーズ客をターゲットとしたもので、アメリカで成功した現代クルーズのビジネスモデルが日本でも導入されたのは画期的で、日本外航客船協会のクルーズ・オブ・ザ・イヤーを2回受賞しています。

14年には海外のクルーズ客船も北海道の定点定期クルーズを始めました。米プリンセスクルーズの8万総トン級の「サン・プリンセス」は、夏

今年、日本の誇る高級客船「飛鳥II」も横浜発着の北海道に寄港する夏のクルーズを2回実施します。ぜひとも夏の北海道の快適なクルーズを